

# 国民として国の政治を考えよう

長野県公立中学校教諭

## 1 はじめに

政治単位では、政治が生活から離れた世界にあるため、しくみや制度を理解させることで終わってしまい、「自分との関わりで考える」という視点の学習にまで到達できないことが多い。そこで、政治単元を身近な問題にまで引き寄せて考えさせるために、以下の3つの点を取り入れて、単元を構成してみた。

### ①単元の全体イメージを捉える時間の設定

教科書の見開き2ページを1時間という教師のとらわれを越えて、国民主権と国会の位置づけ、世論とマスコミの関係、選挙と政治との関わりなど、単元全体の知識を関連させて、全体像を捉えられる時間をとった。

### ②模擬選挙を取り入れた体験型学習

模擬選挙という体験型学習を取り入れた。選挙を体感することでイメージがつかめるだけでなく、体験を通じた気づきから学習を深めることができる。また、体験型学習が、それ以後の単元展開の中で、考えを深める足場にもなる。

### ③自分との接点で考える場の設定

実際の授業では、知識理解をおさえるところで止まってしまうケースが多い。そこで、単元の終末で、自分との関わりで考えられる学習問題での追究を取り入れた。

## 2 授業の展開例

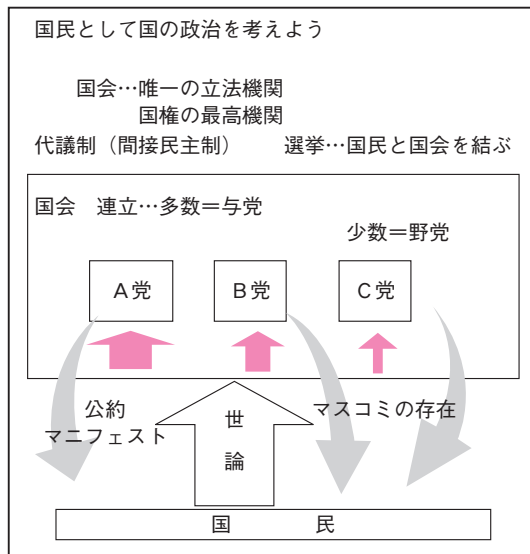
### ①国民主権と選挙の関係をあきらかにしよう (1時間)

#### 学習問題

国民の意見はどのように、国会に反映されるのだろうか

憲法学習での「国民主権」で学んだ既習事項を思い出し、教科書127ページの挿絵から、国民の意見がどのように国会で取り上げられるか、課題意識を持たせる。板書で図示をしながら、選挙によって、政党の公約がマスコミによって伝えられ、世論が形成される。選挙によって国民の意見が反映して、国会が作られる。全体の仕組みを図示することで、全体像を理解させる。

#### 《板書例》



## ②模擬選挙をやってみよう（2時間）

模擬選挙を行い、日本の選挙制度のしくみと問題点をとらえよう

日本の選挙制度である小選挙区比例代表並立制の概要を捉えた後、模擬選挙で日本の選挙制度の課題をつかませて、模擬選挙の準備に入る。模擬選挙には、いろいろなやり方があるが、ひとつの典型として次のような手順をあげておこう。

### 【模擬選挙の手続き】

- ( i ) 候補者を3～5人選ぶ。各候補者は公約を考える。自らが属する政党名を決める。
- ( ii ) 候補者は名前、政党名、公約をポスターに書き、選挙演説を行う。

### 【例】

|      |  |
|------|--|
| 候補者名 | 中野洋司   |
| 政党名  | 日本教育党  |
| 公約   | *軍事にかけける予算を減らす<br>*教育予算を増やす<br>*2009年までに、学校に冷暖房を完備<br>*ランチルーム新設、メニューを増やす |

- ( iii ) 投票を行う。それぞれ1人につき2枚の投票用紙を配る。1枚目は、小選挙区選挙として、候補者名を記入させ班ごとに投票させる。もう一方は、比例代表選挙として、政党名を記入させ、クラス全体で投票させる。
- ( iv ) 選挙管理委員を決めて、開票作業を行わせる。投票結果を確認する。小選挙区は、班ごとにそれぞれ1名の当選者、比例代表制ではクラス全体で6名の当選者を決定することにする。開票結果をもとに教師が、小選挙区での当選者を確認する。また、比例代表選挙の結果からドント方式で、6名の当選者数

を計算方法を示しながら計算し、当選者数を確定する。

- ( v ) 選挙結果を見て気づいたことや2つの選挙の問題点を出し合う

### 【選挙結果例】

| 小選挙区選挙 |   |     |       |    |    |    |    |    |
|--------|---|-----|-------|----|----|----|----|----|
|        | 党 | 1班  | 2班    | 3班 | 4班 | 5班 | 6班 | 計  |
| a候補    | A | 3   | 4     | 2  | 5  | 3  | 4  | 21 |
| b候補    | B | 2   | 1     | 3  | 1  | 1  | 1  | 9  |
| c候補    | C | 1   | 1     | 1  | 0  | 2  | 1  | 6  |
| A党     |   | 21票 | 当選者5名 |    |    |    |    |    |
| B党     |   | 9票  | 当選者1名 |    |    |    |    |    |
| C党     |   | 6票  | 当選者0名 |    |    |    |    |    |
| 比例代表選挙 |   |     |       |    |    |    |    |    |
| A党     |   | 17票 | 当選者3名 |    |    |    |    |    |
| B党     |   | 10票 | 当選者2名 |    |    |    |    |    |
| C党     |   | 9票  | 当選者1名 |    |    |    |    |    |

### 【生徒の意見】

**生徒**「小選挙区制だと、同じ政党の人ばかり当選している。」

**教師**「どんな時に小選挙区制のよさがでるだろう。」

**生徒**「前の選挙であった郵政民営化のような選挙では、白黒がはっきりするんじゃないかな。」

**生徒**「比例代表制では、どの政党も当選者がでている。票数が違っていても、当選者数は大きく変わらない。」

**教師**「『いきた投票数』という面で2つの選挙を見てみるとどうだろう。」

**生徒**「小選挙区制では、15票の人の投票がいかされていない。クラスにすると40%くらいになる。半分近くの人意見が生かされないのは、選挙としては問題じゃないかな。」

**生徒**「それに対して、比例代表制は、全員の

投票がいかされるということがいえる。」

教師「2つの選挙制度には、それぞれ長所と短所がある。比例代表制では、少数意見が尊重され、いろんな政党が当選できるけど、政治をするうえで、法律が決まりにくく、政治が安定しないという問題もあるんだ。」

このように生徒の意見を生かしながら、選挙制度をめぐる問題点をまとめると、体験が共通基盤になるため、納得する生徒も多く、知識としても定着しやすい。また、この後、下あげたその他の問題点を確認する時間をとった。

- ・一票の格差
- ・お金がかかりすぎる選挙
- ・金権選挙
- ・投票率の低下

### ③国民の政治参加を見直そう（1時間）

国会と選挙制度のまとめとして、国民の政治参加を自分の問題として考えさせるため、ギリシャやオーストラリアなど一部の国で取り入れられ、高い投票率を維持している棄権者への罰金制を取り上げ、資料を根拠に、話し合うことを通して、民主主義の大切さについて考えさせた。

投票率を上げるために、罰金制を導入すべきか

資料を提示、資料の解説をした後、賛成、反対の立場を明確にしたうえで、自分の意見をまとめさせ、発表や話し合いを行った。どちらかに結論を出すのではなく、罰金制を導入すべきかを考えることを通して、民主主義に対する意識を高めることをねらいたい。単元の最後に、授業を振り返らせ、国民の政治参加について、自分の問題として考えさせたい。

### 【使用する資料】

- ・日本の選挙の投票率の推移
- ・年齢別の投票率
- ・選挙に棄権する理由
- ・選挙の棄権に対して罰則を与えている国
- ・各国の選挙の工夫
- ・投票率を上げるための工夫（日本）
- ・選挙権の獲得までの道のり

### 【生徒の意見から】

「投票率は、下がる傾向にあり、50%を切ったときもあった。国民の半分が選挙に参加しないことは深刻だ。さらに、若者の棄権率が高いということは、これからもっと投票率が下がるということだ。歯止めをかける意味でも、罰則をつくって、投票率を上げた方が良いと思う。」

「罰則を与えて、嫌々選挙をさせるのは、本来の姿ではないと思う。日本の投票率が低い原因は、政治に対する無関心なので、政治に関心を持ってもらえるような工夫をしなければ、投票率は上がってくると思う。強制されていい加減な選挙をすれば、棄権するのと変わらないと思う。」

## 3 まとめ

政治単元の最終目標は、公民的な資質の育成であると考え。未知なる部分を実際に体験することで、選挙の価値を理解し、参加意識も高められると考える。また、生徒すべてが共通基盤に立って学習をすすめることができるため、気づきや深まりも期待できる。

最終的に、「自分はどうするんだ」と自問させるところまで到達できれば、この単元の目標は達成された考えてもよいのではないだろうか。